

国語 I の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1年生 (2単位)	現代文	7	3	0	10
	古文	12	3	0	15
	漢文	4	3	0	7
細目数計		23	9	0	32

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
現代文	評論	語彙	文中に用いられている漢字・語句を正しく読み書きし、またその意味が理解できる。	A
		読解	段落ごとに筆者の論旨の展開を追うことで、筆者の意見を理解できる。	A
		論理の展開	評論文の論理の組み立て及び展開が理解できる。	B
	小説	文学史	作者についての正しい知識を前提に、作品の成立した背景を十分に理解し、文学史上の位置づけを知ることができる。	A
		語彙	文中に用いられている漢字・語句を正しく読み書きし、その意味が理解できる。	A
		読解	小説特有の表現を踏まえ、人物・情景・心情などに注意しながら、作者の表現したい意図（主題）を理解することができる。	A
		鑑賞	文学作品としての構成や表現の特色をとらえ、行間からにじみ出てくる作品の世界を味わい、その文学的世界観を鑑賞することができる。	B
	詩	文学史	作者についての正しい知識を前提に、作品の成立した背景を十分に理解し、文学史上の位置づけを知ることができる。	A
		表現	詩の形式及び、詩特有の表現・修辞をふまえ、作者の意図（主題）を理解することができる。	A
		鑑賞	詩人の発想やそこに込められた思いを踏まえ、詩の世界を味わい、その表現性を十分に楽しむことができる。	B
古文	随筆	文法	用言の活用形の意味が理解できる。 基本的な助動詞の意味が理解できる。	A
		語彙・語法	古語の意味及び、古文特有の表現を理解できる。	A
		文学史	日本文学の三大随筆を理解し、授業で取り扱う作品及び作者の文学史上の価値・位置づけが理解できる。	A
		内容理解	それぞれの話の内容を正確に理解し、随筆の中に描かれている人物の描写を正確に理解することができる。	A
		古典常識	作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を理解することができる。	A
		観賞	筆者の主張や教訓を理解し、日本古典の随筆文学の面白さを味わうことができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
古文	詩歌	文学史	日本古典文学における和歌の重要性をふまえ、上代・中古・中世における和歌史を理解できる。	A	
		語彙・語法	基本的文法事項及び、和歌の基本的な修辞法を理解することができる。	A	
		観賞	和歌に込められた作者の心情とその時代背景を理解できる。	B	
	物語	文法	用言の活用形の意味が理解できる。 基本的な助動詞の意味が理解できる。	A	
		語彙・語法	古語の意味及び、古文特有の表現及び、修辞法を理解することができる。	A	
		文学史	物語の種類をふまえ、作者及び作品の文学史上の価値・位置づけを理解できる。	A	
		解釈	文法及び古文特有の表現に注意し、場面や物語の展開を理解し、口語訳できる。	A	
		古典常識	作品をとおして、当時の人々の生活・文化・風習を理解することができる。	A	
		観賞	物語の世界観を理解し、物語文学の面白さを味わうことができる。	B	
	漢文	訓読（訓点）	書き下し文	訓点の約束を理解した上で、漢文を訓読できる。またそれを書き下し文にすることができる。	A
			送り仮名	書き下し文を参考にして、白文に送り仮名を付けることができる。	A
返り点			漢文法と日本語文法の相違点に注意して、白文に返り点を打つことができる。	A	
読解			簡単な漢文を読み、内容を理解することができる。	A	
語法			漢文特有の語法を理解することができる。	B	
鑑賞		文学史	文章の作者及び、その作品を、その時代に即して理解し、文学史上に位置付けることができる。	B	
		鑑賞	暗唱できるくらい何度も音読をし、作者の意図や、その作品の価値を味わうことができる。	B	

歴史の基礎・基本

1. 項目数

	分類	A	B	C	項目数計
1年生(2単位)	世界史	9 + α	5	4	18 + α
項目数計		9 + α	5	4	18 + α

2. 項目とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
世界史	原始	人類の始まり	地球と命の始まり、生物の進化について理解することができる。	B
			人類の発達段階について理解することができる。	A
		文明の起源	身分の発生、社会の形成について理解することができる。	A
			古代文明における世界各地の遺跡等について理解することができる。	C
	オリエント	オリエントの古代文明	エジプト、メソポタミア、フェニキア文明について理解することができる。	A
			アッシリア、アケメネス朝ペルシアの文明について理解することができる。	A
			他の古代オリエント諸国の文明について理解することができる。	C
		ユダヤ通史	ユダヤ史＝古代から現代までの概要を理解することができる。	A
	ヨーロッパ	西洋の源流	ギリシア、ローマ、キリスト教の概要を理解することができる。	A
	インド	インド思想の源流	インド古代国家の概要を理解することができる。	B
			仏教、ヒンドゥー教の概要を理解することができる。	A
	イスラム	イスラム思想	イスラム教の成立と思想を理解することができる。	A
			イスラム古代諸王朝を理解することができる。	B
			分裂後のイスラム王朝の拡大について理解することができる。	C
	ヨーロッパ	中世ヨーロッパ	ゲルマン民族移動以後のヨーロッパ社会の概要を理解することができる。	C
		ヨーロッパ世界の拡大と改革	近代化三大運動以後のヨーロッパ社会の概要を理解することができる。	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
世界史	近代	近代と世界の変容	アメリカ合衆国の独立・フランス革命以後の欧米社会の概要について理解することができる。	B
	その他	テーマ史及び時事問題	授業進行時点での世界情勢を考えるために必要なテーマを理解することができる。	A×X

地 理 の基礎・基本

1. 基礎・基本の項目数

	分 類	A	B	C	項目数計
1 学年 (2 単位)	世界の特色	6	3	3	1 2
	世界の現状	1 0	6	0	1 6
項目数計		1 6	9	3	2 8

2. 項目とそれらの内容

1 / 2

分 類	項 目	細 目	理解すべき内容	区分	
世界の特色	地球の大きさと丸さ	スケール	衛星写真、地球儀、諸地図を参照しながら地球の規模を理解することができる。	C	
		方位・距離	地図を用いて方位、距離を把握することができる。	A	
		緯度・経度	緯度・経度の意義を理解することができる。	B	
		略地図	略地図を書くことができる。	B	
		時差の計算	時差の計算ができる。	A	
		国境	日本の国境を認識するとともに、日本の抱える領土問題について考えることができる。	A	
	結びつく現代社会	交通を通じた結びつき	様々な交通手段の発達により世界が結びついていることを認識することができる。	A	
		通信を通じた結びつき	高度情報化により、通信の側面における世界の結びつきを認識できる。	C	
		物を通じた結びつき	世界貿易の進展による、様々な物資を通じた世界の結びつきを理解することができる。	A	
		人を通じた結びつき	交通手段の発達による、人々の移動を認識するとともに、それに伴う諸問題を理解することができる。	A	
	多様さを増す人間行動と現代社会	趣味についての国民性	余暇時間の増大に関して、世界の国々における余暇活動の違いを知ることができる。	B	
		旅行のグローバル化	海外旅行の増加傾向を認識し、外国人旅行者の動向を理解することができる。	C	
	世界の現状	生活・文化と自然や社会のかかわり	気候の影響	人々の暮らしと気候の関係を理解することができる。	B
			地形の影響	人々の暮らしと地形の関係を理解することができる。	B
宗教の影響			人々の暮らしと宗教の関係を理解することができる。	A	
他文化の影響			人々に対する他の文化の影響を理解することができる。	A	
異民族との共生		民族とは何か	民族の意義を理解することができる。	A	
		多民族国家	他民族国家の意義を理解しすることができる。	B	
		他民族との共生の工夫	他民族国家の動向を把握し、他民族との共生のための工夫を考えることができる。	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
	日本の近隣諸国の相違点と共通点	中国	中国の民族と生活の特色を理解することができる。	A
		韓国	韓国及び朝鮮民族の生活と文化を理解することができる。	A
		ロシア	ロシア連邦の人々の生活を理解することができる。	B
	地球的課題の解決	人口問題	世界の人口問題を大観し、その背景を理解し、人口問題を解決するための取り組みを理解することができる。	A
		都市問題	先進国の都市部の衰退の原因、発展途上国の都市問題の原因を理解することができる。	A
		食糧問題	世界の食料生産の状況と発展途上国の飢餓の現状との関係を理解することができる。	B
		資源・エネルギー問題	様々な資源の役割と分布の特色を知り、特に石油の有用性を理解するとともに、今後のエネルギー問題について考えることができる。	B
		環境問題	日本の公害問題について学び、今日の地球環境問題までの歴史的経緯を理解する。また、地球環境問題として、特に、熱帯林の破壊と地球温暖化問題を理解することができる。	A
		南北問題	先進工業国と発展途上国との経済格差の原因、発展途上国の現状を理解することができる。	A

数学基礎 I の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1 学年 (2 単位)	数と式の計算	16	6	3	25
	方程式と不等式	9	11	2	22
	集合と命題	0	5	8	13
細目数計		25	22	13	60

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
数と式の計算	整式の計算	整式の整理	整式の整理ができる。	A		
		交換・結合・分配法則	交換・結合・分配法則を利用して整式の計算ができる。	A		
		指数法則	指数法則を理解できる。	A		
		展開公式	展開公式を利用して整式の計算ができる。	A		
		因数分解	公式を利用して因数分解ができる。	A		
		たすき掛け	たすき掛けによる因数分解ができる。	A		
		整式の除法	整式の除法が計算できる。	A		
		除法の等式	除法の等式を理解できる。	B		
		剰余の定理	剰余の定理を理解できる。	B		
		因数定理	因数定理を理解できる。	A		
		高次式の因数分解	因数定理を利用して高次式の因数分解ができる。	B		
	いろいろな数と式	除法の指数法則	除法の指数法則を理解できる。	A		
		分数式の四則演算	分数式の四則演算ができる。	A		
		繁分数式	繁分数式の計算ができる。	B		
		分数式と除法	除法の等式を利用して分数式の計算ができる。	B		
		絶対値	絶対値の意味を理解できる。	A		
		絶対値の性質	絶対値の性質を理解できる。	B		
		根号の性質	根号の性質を理解できる。	A		
		分母の有理化	分母の有理化が行える。	A		
		虚数単位	虚数単位の意味を理解できる。	A		
		複素数	複素数の性質を理解できる。	A		
		複素数の計算	複素数の計算ができる。	A		
		複素平面	複素平面の意味を理解できる。	C		
		共役複素数	共役複素数の意味を理解できる。	C		
		複素数の絶対値	複素数の絶対値の意味を理解できる。	C		
		方程式と不等式	方程式	2 次方程式	因数分解により 2 次方程式の解を求めることができる。	A
				解の公式	解の公式を利用して 2 次方程式の解を求めることができる。	A
実数解, 虚数解, 2 重解	2 次方程式の解には実数解, 虚数解, 2 重解の 3 つの場合があることを理解できる。			A		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
		判別式	判別式を利用して2次方程式の解を判別できる。	B	
		解と係数の関係	解と係数の関係を理解できる。	B	
		2次式の因数分解	解と係数の関係を利用して2次式の因数分解ができる。	B	
		高次方程式	因数定理や文字の置き換えを利用して高次方程式の解を求めることができる。	B	
		3元1次連立方程式	3元1次連立方程式の解を求めることができる。	A	
		2元2次連立方程式	2元2次連立方程式の解を求めることができる。	B	
		分数方程式	分数方程式の解を求めることができる。	B	
		無理方程式	無理方程式の解を求めることができる。	B	
		恒等式	恒等式の係数を定めることができる。	A	
		部分分数分解	恒等式の理論を利用して部分分数分解ができる。	B	
		等式の証明	式の展開や因数分解を利用して等式の証明ができる。	B	
		比例条件	比例条件を利用して等式の証明ができる。	B	
		不等式	不等式の性質	不等式の性質を理解できる。	A
	1次不等式		1次不等式の解を求めることができる。	A	
	連立1次不等式		連立1次不等式の解を求めることができる。	A	
	2次不等式		2次不等式の解を求めることができる。	A	
	高次不等式		高次不等式の解を求めることができる。	C	
	不等式の証明		実数の2乗が0以上であることなど実数の性質を利用して不等式の証明ができる。	B	
	相加平均と相乗平均		相加平均と相乗平均についての不等式を利用していろいろな不等式の証明ができる。	C	
	集合と命題	集合と命題	集合・要素	集合・要素の概念を理解できる。	B
			部分集合	部分集合の概念を理解できる。	B
ベン図			ベン図を利用していろいろな集合を図示できる。	B	
共通部分, 和集合			いろいろな集合について共通部分, 和集合を求めることができる。	B	
全体集合, 補集合			全体集合, 補集合の概念を理解できる。	C	
空集合			空集合の概念を理解できる。	B	
ド・モルガンの法則			ド・モルガンの法則を理解できる。	C	
命題, 真・偽			命題の真・偽が判定できる。	C	
反例			命題が偽であることを反例をあげて証明できる。	C	
必要・十分条件			与えられた条件が必要条件や十分条件であるか判定できる。	C	
否定			命題の否定を作ることができる。	C	
逆, 裏			命題の逆, 裏を作ることができる。	C	
対偶			命題の対偶を作り, これを利用してもとの命題を証明できる。	C	

数学基礎Ⅱ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1 学年 (2 単位)	関数とグラフ	6	10	4	20
	図形と式	7	11	4	22
	場合の数	4	3	2	9
細 目 数 計		17	24	10	51

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
関数と グラフ	2 次関数	関数, 変数, 値	関数, 変数, 値の概念を理解できる。	B
		定義域, 値域	定義域, 値域の概念を理解できる。	B
		座標平面, 象限	座標平面, 象限の概念を理解できる。	B
		グラフ	グラフの概念を理解できる。	B
		2 次関数	2 次関数の定義を理解できる。	A
		2 次関数のグラフ	2 次関数のグラフの性質を理解できる。	A
		標準形	与えられた 2 次関数を標準形に直すことができる。	B
		2 次関数の最大・最小	与えられた定義域における 2 次関数の最大値・最小値を求めることができる。	A
		2 次関数と 2 次方程式	2 次関数のグラフと 2 次方程式の解の関係を理解できる。	B
		2 次関数と 2 次不等式	2 次関数のグラフを利用して 2 次不等式の解を求めることができる。	B
	いろいろな 関数	偶・奇関数	偶関数, 奇関数の性質を理解できる。	A
		グラフの平行移動	与えられたグラフを平行移動して得られたグラフを表す式を求めることができる。	B
		単調増加・減少	単調増加・減少の概念を理解できる。	C
		分数関数	分数関数の定義・性質を理解できる。	A
		(直角) 双曲線	(直角) 双曲線の性質を理解できる。	B
		漸近線	与えられた分数関数の漸近線を求めグラフを書くことができる。	C
		無理関数	無理関数の定義・性質を理解できる。	A
		グラフの対称移動	与えられたグラフを対称移動して得られたグラフを表す式を求めることができる。	C
		グラフの拡大縮小	与えられたグラフを拡大・縮小して得られたグラフを表す式を求めることができる。	C
逆関数	与えられた関数の逆関数を求めグラフを書くことができる。	B		
図形と式	点と直線	2 点間の距離	公式を利用して 2 点間の距離を求めることができる。	A
		内分点	公式を利用して内分点を求めることができる。	B
		直線の方程式	直線の方程式の定義を理解できる。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
		1点と傾きの定まった直線	1点と傾きの定まった直線の方程式を求めることができる。	A
		2点を通る直線	与えられた2点を通る直線の方程式を求めることができる。	A
		三角形の重心	与えられた3点を頂点とする三角形の重心の座標を求めることができる。	B
		平行条件	2直線の平行条件を利用して基本的な問題が解ける。	A
		垂直条件	2直線の垂直条件を利用して基本的な問題が解ける。	B
		2次曲線	円の方程式	与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができる。
		2次曲線	2次曲線の内容を理解できる。	C
		楕円	楕円の定義・性質を理解できる。	B
		楕円の方程式	楕円のグラフを書くことができる。	B
		双曲線	双曲線の定義・性質を理解できる。	B
		双曲線の方程式	双曲線のグラフを書くことができる。	B
		漸近線	双曲線と漸近線の内容を理解できる。	C
		放物線	放物線の定義・性質を理解できる。	B
		放物線の方程式	放物線のグラフを書くことができる。	B
		接線, 接点	接線, 接点の定義を理解できる。	A
		接線の方程式	与えられた2次曲線の接線の方程式を求めることができる。	B
		三角形の内接円・内心	三角形の内接円・内心の定義・性質を理解できる。	C
		不等式の表す領域	与えられた不等式の表す領域を図示できる。	B
		連立不等式の表す領域	与えられた連立不等式の表す領域を図示できる	C
	場合の数	場合の数	積の法則	積の法則を利用して場合の数を求めることができる。
和の法則			和の法則を利用して場合の数を求めることができる。	A
順列			順列の公式を利用して場合の数を求めることができる。	A
円順列			円順列の内容を理解し場合の数を求めることができる。	B
重複順列			重複順列の内容を理解し場合の数を求めることができる。	C
同じものを含む順列			同じものを含む順列の内容を理解し場合の数を求めることができる。	C
組合せ			組合せの公式を利用して場合の数を求めることができる。	A
二項定理, 二項係数			二項定理を利用して式の展開ができる。	B
パスカルの三角形			パスカルの三角形を利用して二項係数を求めることができる。	B

数学基礎Ⅲ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1 学年 (1 単位)	指数関数	5	3	1	9
	三角比	4	5	1	10
細 目 数 計		23	20	5	48

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
指数関数	指数関数	累乗根, 根号, 指数	累乗根, 根号, 指数の定義を理解できる。	A
		累乗根の性質	累乗根の性質を理解できる。	A
		指数の拡張	拡張された指数の定義を理解できる。	A
		指数法則	拡張された指数法則を理解できる。	A
		指数関数	指数関数の定義を理解できる。	A
		指数関数のグラフ	指数関数のグラフを書くことができる。	B
		指数関数の性質	指数関数の性質を理解できる。	B
		指数方程式	指数方程式の解を求めることができる。	B
		指数不等式	指数不等式の解を求めることができる。	C
三角比	三角比	\sin, \cos, \tan	\sin, \cos, \tan の定義を理解できる。	A
		$90^\circ - \alpha$ の三角比	$90 - \alpha$ の三角比の公式を利用して三角比の計算ができる。	B
		三角関数表	三角関数表を利用して三角比を求めることができる。	B
		鈍角の三角比	鈍角に拡張された三角比の定義を理解できる。	A
		$180^\circ - \alpha$ の三角比	$180 - \alpha$ の三角比の公式を利用して三角比を求めることができる。	B
		三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して三角比を求めることができる。	A
		正弦定理	正弦定理を利用して図形の問題を解くことができる。	B
		余弦定理	余弦定理を利用して図形の問題を解くことができる。	A
		三角形の面積	公式を利用して三角形の面積を求めることができる。	B
		ヘロンの公式	ヘロンの公式を利用して三角形の面積を求めることができる。	C

数学基礎Ⅳ の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1 学年 (1 単位)	三角関数	10	6	2	18
	対数関数	4	6	1	11
細 目 数 計		14	12	3	29

2. 分類とそれらの内容

1 / 1

分類	項 目	細 目	理解すべき内容	区分
三角関数	三角関数	一般角	一般角の概念を理解できる。	A
		象限	象限の定義を理解できる。	B
		三角関数 (sin, cos, tan)	三角関数の概念を理解できる。	A
		その他の三角関数 (sec, cosec, cot)	その他の三角関数の概念を理解できる。	B
		弧度法 (ラジアン)	弧度法の定義を理解できる。	A
		60分法と弧度法の関係	60分法と弧度法を理解できる。	A
		扇形の弧の長さや面積	弧度法を利用して扇形の面積を計算できる。	B
		三角関数の相互関係	三角関数の相互関係を利用して三角比を求めることができる。	A
		三角関数のグラフ	いろいろな三角関数のグラフを書くことができる。	A
		周期関数	三角関数の周期性を理解することができる。	A
		方程式	三角関数を含む方程式の解を求めることができる。	B
		不等式	三角関数を含む不等式の解を求めることができる。	C
	加法定理	加法定理	加法定理を理解し、基本的な問題を解くことができる。	A
		2倍角の公式	2倍角の公式を理解し、基本的な問題を解くことができる。	A
		半角の公式	半角の公式を理解し、基本的な問題を解くことができる。	A
		積を和・差に直す公式	積を和・差に直す公式を理解し、基本的な問題を解くことができる。	B
		和・差を積に直す公式	和・差を積に直す公式を理解し、基本的な問題を解くことができる。	B
		三角関数の合成	三角関数の合成ができる。	C
	対数関数	対数関数	対数の定義	対数の定義を理解できる。
対数の性質			対数の性質を理解し、計算ができる。	A
底の変換公式			底の変換公式を理解し、計算ができる。	B
対数関数			対数関数の定義を理解できる。	A
対数関数のグラフ			対数関数のグラフを書くことができる。	B
対数関数の性質			対数関数の性質を理解することができる。	B
対数方程式			対数方程式の解を求めることができる。	B
対数不等式			対数不等式の解を求めることができる。	C
常用対数			常用対数の定義を理解することができる。	A
対数表			対数表を利用して対数の値を求めることができる。	B
常用対数の利用			常用対数を利用して、基本的な問題を解くことができる。	B

物理Ⅰ の基礎・基本

1. 細目数

	分野	A	B	C	細目数計
1年生 (2単位)	力学	46	35	8	92
細目数計		46	35	8	92

2. 分類とそれらの内容

1 / 4

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力学	単位	基本単位	人類共通の地球及び水が長さ、時間及び質量の単位の基であることを理解する	C
		MKS単位 (SI単位)	長さ、質量、時間の単位を[m]、[kg]、[s]で表すことを理解する	A
		単位の変換	MKS単位と他の主要単位との変換ができる	B
	等速度運動	移動距離	移動距離(x)と経過時間(t)の関係を理解する	A
		x-tグラフ	移動距離(x)と経過時間(t)の関係を示すグラフの意味を理解する	B
		速さ	単位時間当たりの移動距離が速さ(v)であることを理解する： $v=x/t$	A
		v-tグラフ	v-tグラフ上の面積が移動距離に相当することを理解する	B
		速度	移動方向を加味した速さが速度であることを理解する	A
		変位	方向を加味した移動距離が変位であることを理解する	A
		速度単位の変換	[m/s]と[km/s]、[km/h]の相互変換ができる	A
	等加速度運動	速度変化	等加速度運動の速度変化を、数式で表せることを理解する： $v=at+v_0$	A
		加速度	単位時間当たりの速度変化が加速度であることを理解する： $a=(v-v_0)/t$	B
			加速度の単位は[m/s ²]であることを理解する	B
		変位	v-tグラフ上の面積から等加速度運動での変位を理解する	A
	等加速度運動での変位を、数式で表せることを理解する： $x=v_0t+at^2/2$		A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力 学	力	様々な力	重力、摩擦力、弾性力、磁気力のイメージをつかむ	B
		力の単位	地表面で質量1 [kg]の物体に作用する重力が、1 [kgw] (1kg重)であることを理解する	A
		力のつり合い	2力AとBが作用し、 $F = A + B = 0$ のとき、 $A = -B$ 、AとBは等大で逆向き	B
			つり合いを3力以上の場合に拡張 ： $A + B + C + \dots = 0$	C
	運動の法則	第1法則	慣性の法則を理解する	A
		第2法則	質量mの物体に作用する力(F)と加速度(a)の関係を理解する： $F = ma$	A
			第2法則で力の単位を再定義し、力の単位を[N]とする	B
		第3法則	作用反作用の法則を理解する	A
	重力とバネの力	重力加速度	地表付近における落下の加速度を重力加速度(g)といい、その値は $g \doteq 9.8$ [m/s ²]であることを理解する	A
		重力	重力 $W = mg$ [N]より、1 [kgw] = 9.8 [N]となることを理解する	A
		万有引力	2物体間の引力： $F = GMm / r^2$	A
		万有引力 バネの力	地表の物体に働く重力は、地球との万有引力による力であることを理解する	B
			バネが元に戻ろうとする力(弾性力)を理解する： $F = -kx$	A
		バネの力 運動方程式の 作り方	バネ定数 k の意味とその単位 [N/m] を理解する 物体(質量m)に働く力(F)と加速度(a)について： $F = ma$	B A
	いろいろな 直線運動	運動方程式の 使い方	$F = ma$ より $a = F/m$ として、加速度(a)を求めることができる	A
		自由落下運動	$a = g$ の場合、 $v = gt$ 、 $y = gt^2 / 2$ 、 $v^2 = 2gy$ を理解する	A
		初速度ありの 落下運動	$a = -g$ の場合、 $v = v_0 - gt$ 、 $y = v_0 t - gt^2 / 2$ 、 $v^2 - v_0^2 = -2gy$ を理解する	A
	摩擦力が 作用する運動	垂直抗力	物体同士の接触面で垂直方向に押し合う力(垂直抗力：N)が働くことを理解する	A
		摩擦力	摩擦のある接触面では、互いの運動を妨げる向きの力(摩擦力)が作用する	A
		静止摩擦力	静止している間は、加えた力と静止摩擦力がつり合っていることを理解する	A
			静止摩擦力の上限を最大静止摩擦力(F_0)といい、静止摩擦係数(μ)及び垂直抗力(N)を用い、 $f_0 = \mu N$ で表せることを知る	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
カ学	摩擦力が作用する運動	動摩擦力	運動時に作用する摩擦力(F')は、動摩擦係数(μ')と垂直抗力(N)を用い、常に $F' = \mu' N$ で表せることを知る	A
			動摩擦係数(μ')と垂直抗力(N)から動摩擦力を計算できる	B
	運動量	運動量	(質量×速度)で定義されることを理解する	A
		力積	(力×作用時間)で定義されることを理解する	B
		力積の法則	加えた力積は運動量変化に等しいことを理解する	B
		運動量保存則	外力が作用しないとき、運動量保存則が成立することを理解する	B
		運動量保存則 反発係数	直線上での衝突現象に、運動量保存則を応用できる	B
		力積	平面上での衝突現象に、運動量保存則を応用できる	C
		力積の法則	衝突前後の相対速度をそれぞれ v 及び v' として、反発係数が $e = -v'/v$ となることを理解する	B
	仕事と仕事率 力学的 エネルギー	仕事の概念	力とそれによる移動があつてこそ仕事をなしたといえる	B
		仕事 仕事率 エネルギー	定義 $W = F \cdot x$ 単位 $[Nm] \rightarrow [J]$	A
			定義 $P = W/t$ 単位 $[J/s] \rightarrow [W]$	B
			エネルギーは仕事する潜在能力を表し、仕事と同じ単位 $[J]$ をもつことを理解する	B
		運動エネルギー	質量 m 、速さ v で運動する物体の運動エネルギー K は、 $K = mv^2/2$ となることを知る	A
		仕事と 運動エネルギー	物体に加えた仕事は、運動エネルギーの変化に等しいことを理解する	B
		重力の 位置エネルギー	基準面からの高さが h の位置にある質量 m の物体の位置エネルギー U は、 $U = mgh$ となることを知る	A
		弾性力の 位置エネルギー	バネ定数 k のバネの長さを、自然長から x だけ変化させたときの位置エネルギー U が、 $U = kx^2/2$ となることを知る	B
		万有引力の 位置エネルギー	2物体間の万有引力による位置エネルギー U は、 $U = -Gm_1m_2/r$ となることを知る	C
		力学的エネルギー 保存法則 重力の 位置エネルギー	運動エネルギー(K)と位置エネルギー(U)の和($K+U$)は一定であることを理解する	A
	力学的エネルギー保存則の成立条件を理解する		C	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
力 学	重力下での運動	放物体の運動	物体を水平方向に投げ出した場合のx方向、y方向の速度と変位の計算ができる	A
			物体を水平面に対して角度 θ で打ち出した場合の、x方向、y方向の速度と変位の計算ができる	B
		斜面上の運動	重力を斜面に平行方向、垂直方向に分解し、それぞれの運動方程式を記述できる	A
			静止摩擦係数(μ)と摩擦角(θ)の関係を理解する	B
	等速円運動	円運動の要素	等速円運動の半径 r 、速さ v 、周期 T 、角速度 ω の関係を理解する	A
		円運動の加速度	等速円運動の加速度(向心加速度) a は $a = \frac{v^2}{r} = r\omega^2$ となることを知る	A
		向心力	等速円運動する質量 m の物体の向心力、 $F = ma = m \frac{v^2}{r} = mr\omega^2$ を理解する	B
		惑星の運動	惑星に働く向心力は太陽との万有引力である	C
	振 動	単振動	周期運動における変位の表し方を知る	B
		ばね振り子	周期はバネ定数とおもりの質量によることを理解する	C
		単振り子	周期は振り子の長さと言重力加速度によることを理解する	C
	慣性力	慣性力の例	日常体験で慣性力を例示できる	A
		慣性力の性質	加速度 a で運動する座標系内に存在する質量 m の物体には、 $-ma$ の力(慣性力)が働くことを理解する	A
		遠心力	遠心力とは、円運動に伴う慣性力であることを理解する	B
		無重力状態	人工衛星中では、万有引力と慣性力が打ち消しあっていることを理解する	B
	流体に作用する力	圧 力	力とそれが作用する面積から圧力が計算できる	A
		パスカルの原理	油圧機や水圧機についてパスカルの原理が応用できる	B
重力場の圧力		大気圧と言水圧が計算できる	B	
浮 力		アルキメデスの原理を用いて浮力が計算できる	A	

化 学 I の基礎・基本

1. 細目数

	分 類	A	B	C	細目数計
1 年 生 (1 単 位)	物 質 の 探 求	7	15	0	22
	物質の構成粒子	32	5	2	39
細 目 数 計		39	20	2	61

* 化学実験(4時間予定)は記していない

2. 分類とそれらの内容

1/4

分 類	項 目	細 目	理 解 す べ き 内 容	区 分
物質の探求	物質の分類	純物質	ただ1種類の物質からなり、一定の性質をもつことを理解する	A
		混合物	2種類以上の純物質からなり、混じっている物質の割合で性質が変わることを理解する	A
		物質の三態	物質には固体、液体、気体の3つの状態があることを知る	B
		状態変化	物質は温度によって三態の間で姿を変え、固体と液体間の変化を融解・凝固、液体と気体間の変化を蒸発・凝縮、固体と気体間の変化を昇華ということを知る	B
		混合物の分離と精製	状態変化を利用すると混合物から純物質が取り出せることを知る 混合物から純物質を取り出すことを分離、分離した物質から不純物を取り除き、より純粋にする操作を精製ということを知る	B
		蒸 留	沸点の差を利用して溶液から溶媒を分離する操作であることを知る	B
		分 留	2種類以上の液体の混合物を蒸留によって分離する操作であることを知る	B
		ろ 過	ろ紙などによって不溶性の固体と液体を分離する操作であることを知る	B
		抽 出	溶解性の差を利用して特定の物質のみを取り出す操作であることを知る	B
		再結晶	溶解度の差を利用して固体混合物を分離する操作であることを知る	B
	昇 華	固体から液体を経ずに直接気体になる(または気体になったものが再び固体になる)状態変化を利用して物質を分離する操作であることを知る	B	
	ペーパークロマトグラフィー	ろ紙の端から溶媒をしみ込ませ、溶媒の移動によりろ紙上の物質を分離する操作であることを知る	B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
物質の探求	物質の成分	単体	1種類の成分（元素）からなり、それ以上分解できない純物質であることを理解する	A
		化合物	2種類以上の別の物質（元素）からなり、分解できる純物質であることを理解する	A
		分解と化合	1種類の物質から2種類以上の物質が生じる変化を分解、逆に2種類以上の物質が結びついて別の物質ができる変化を化合ということを知る	B
		化学変化（化学反応）	分解や化合などによってある物質が別の物質に変わる変化のことであることを知る	B
		物理変化	物質そのものは変わらず状態だけが変化することであることを知る	B
		元素	物質を構成する基本的な成分であることを理解する	A
		元素記号	元素を表す記号で、ラテン語名などの頭文字をアルファベットの大文字1文字、またはさらにつづりから小文字1文字をつけて表したものであることを理解する	A
		同素体	同じ元素の単体で性質の異なる物質があることを理解する	A
		成分元素の確認	物質を構成する構成元素は元素に特有の反応や試料を識別しやすい他の物質に変えるなどの方法で確認できることを知る	B
炎色反応	物質を無色炎の中で熱したとき、ある種の金属元素が特有の炎の色を発する現象であることを知る	B		
物質の構成粒子	構成粒子	原子	原子はすべての物質の構成要素であり、固有の大きさと質量を持つが、非常に小さく、軽いことを理解する	A
		分子	いくつかの原子が結合してできていることを理解する	A
		イオン	正または負に帯電した粒子であることを理解する	A
	原子の構造	原子核と電子	原子の中心には正の電荷をもった原子核があり、まわりに負の電荷をもった電子があるまた、原子は電氣的に中性であることを理解する	A
		陽子と中性子	原子核中には、正の電荷をもった粒子である陽子と電荷を持たない粒子である中性子があり、質量はほぼ同じであることを理解する	A
		原子番号	原子のもつ陽子の数で、原子の種類を決めるものであることを理解する	A
		質量数	陽子と中性子の数の和で示される原子の質量のめやすのことで、電子の質量は非常に小さく、無視できることを理解する	A
		同位体（アイソトープ）	陽子の数が等しく、中性子の数が異なる同じ種類の原子で、自然界で存在比がほぼ一定していることを理解する	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
物質の構成粒子	原子の構造	放射性同位体	放射線を出す同位体で、年代測定、医療、トレーサーなどに利用されていることを知る	C
		電子殻	原子核の周囲にある電子が存在している層で、電子殻名、収容可能な電子数があることを理解する	A
		電子配置	各電子の電子殻への入り方のことで、収容順が決まっていることを理解する	A
		最外殻と最外殻電子	最外殻とは電子の最も外側にある電子殻で、最外殻電子とは最外殻にある電子であることを理解する	A
		価電子	原子の化学的性質や結合に重要な役割を果たす最外殻電子であることを理解する	A
		閉殻	最大収容電子数で満たされている電子殻であることを理解する	A
		希ガス元素	化学的に安定な18族の元素群のことで、価電子は0であることを理解する	A
	イオンと物質	陽イオンと陰イオン	陽イオンとは正の電荷を帯びたイオンで、陰イオンとは負の電荷を帯びたイオンであることを理解する	A
		電離	物質が陽イオンと陰イオンに分かれる現象であることを知る	B
		電解質と非電解質	水に溶けて電離する物質を電解質、電離しない物質を非電解質ということを知る	C
		イオンの価数	イオンになるとき、原子が得たり、失ったりする電子の数であることを理解する	A
		イオン式	元素記号にイオンの価数と電荷の符号をつけて表したイオンの式であることを理解する	A
		単原子イオンと多原子イオン	単原子イオンとは1個の原子からなるイオンのことで、多原子イオンとは複数の原子からなるイオンであることを理解する	A
		イオン結合	陽イオンと陰イオンの静電的な引力(クーロン力)による結合であることを理解する	A
		イオン結晶	イオン結合によってできた電氣的に中性の結晶で、イオン結晶の固体は電気を通さないが、融解したり、水溶液にすると電気を通すという性質をもっていることを理解する	A
		イオン結晶の組成式	イオン結晶は陽イオンと陰イオンを組み合わせた組成式で表される 電荷が±0になるよう組成式を作る	A
		元素の周期表	元素の周期律と周期表	周期律とは元素を原子番号順に並べたとき元素の性質が周期的に変わる規則性のことで、周期表とはこの周期律をもとに元素を分類した表であることを理解する
	族同族元素		族とは周期表の縦の列のことで、1族~18族まであり、同じ族に属する元素を同族元素ということを理解する	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
物質の構成粒子	元素の周期表	周期	周期表の横の列で、第1周期～第7周期までであることを理解する	A
		典型元素と遷移元素	典型元素とは1, 2族と12～18族の性質の周期性がはっきりしている元素で、遷移元素とは3～11族の性質の周期性がはっきりしていない元素であることを知る	B
		金属元素と非金属元素	金属元素とは金属でできた元素で、それ以外の元素を非金属元素ということを知る	B
	分子と物質	共有結合	たがいの価電子の一部を共有しあって電子対をつくり、分子を形成する原子どうしの結合であることを理解する (不対電子を出し合って、共有電子対をつくる結合である)	A
		電子式	元素記号に最外殻電子を書き加えた式であることを知る	B
		不対電子と非共有電子対	不対電子とは電子式における対になっていない共有結合に使われる電子のことで、非共有電子対とは対になっている電子で共有結合に使われないことを知る	B
		共有結合の種類	1対の電子対による結合を単結合、2対の電子対による結合を二重結合、3対の電子対による結合を三重結合ということを理解する	A
		分子式	構成している原子の種類とその数で分子を表した式であることを理解する	A
		構造式	分子中の原子のつながりを価標で表した式であることを理解する	A
		分子からなる物質	多数の分子が集合してできた物質で、一般に融点・沸点が低く、昇華しやすい物質があることを理解する	A
		原子からなる物質	原子がすべて共有結合でできている物質で、非常に硬く、融点もきわめて高いという性質をもつ巨大分子ともいわれる物質であることを理解する	A
	金属	自由電子と金属結合	自由電子とは金属原子間を自由に動き回る電子のことで、この自由電子による金属陽イオン間の結合を金属結合ということを理解する	A
		金属の特徴	金属光沢、電気・熱伝導性、展性、延性という性質をもっていることを理解する	A

化 学 II の基礎・基本

1. 細目数

	分 類	A	B	C	細目数計
1 年 生 (1 単 位)	化学変化と物質質量	13	2	1	16
	化学反応と熱	5	3	1	9
細 目 数 計		18	5	2	25

2. 分類とそれらの内容

1/2

分 類	項 目	細 目	理 解 す べ き 内 容	区 分
化学変化と 物質質量	原子量・分子 量と物質 質量	原子の相対 質量	原子の質量は非常に小さいので、質量数12の炭素 原子1個の質量12を基準にして求めた相対値で比 較できることを理解する $\text{原子の相対質量} = \frac{\text{原子1個の質量}}{^{12}\text{C原子1個の質量}} \times 12$	A
		原子量	原子の相対質量と同位体の存在比を考えて求め た相対質量を原子量ということを理解する 原子量は[同位体の相対質量×存在比]の和で求 められ、計算することができる	A
		分子量	分子を構成する原子の原子量の総和として求め られ、計算することができる	A
		式 量	組成式を構成する原子の原子量の総和として求 められ、計算することができる	A
		アボガドロ 数	^{12}C 12 g 中に含まれる ^{12}C 原子の数 6.0×10^{23} のこ とであることを理解する	A
		物質質量	モル(mol)を単位として表した物質の量のこと で、アボガドロ数の原子や分子・イオンの集団を 1molということを理解し、計算することができる	A
		1molの質量 (g) モル質量 (g/mol)	物質1molあたりの質量のことで、原子量・分子 量・式量に単位 g もしくは g/mol をつけた値に なることを理解する	A
		気体1molの 体積	気体の種類によらず、標準状態(0°C、 $1.01 \times 10^5 \text{Pa}$) で22.4ℓ になることを理解する	A
		溶 解	ある物質が他の物質と混合して均一な混合物を つくる現象であることを知る	B
		溶 質 ・ 溶 媒 ・ 溶液	溶解してできた均一な液体を溶液、溶解した物質 を溶質、溶質を溶かした液体を溶媒ということを知 る	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
化学変化と物質質量	原子量・分子量と物質質量	溶液の濃度	溶液中に含まれる溶質の割合のことで、質量パーセント濃度やモル濃度で表される	A
		質量パーセント濃度 (%)	溶液の質量に対する溶質の質量の割合を百分率で表した濃度であることを理解する $\text{質量パーセント濃度}(\%) = \frac{\text{溶質の質量}(g)}{\text{溶液の質量}(g)} \times 100$ として求められ、計算できる	A
		モル濃度 (mol/l)	溶液1 l 中に含まれる溶質の量を物質質量で表した濃度であることを理解する $\text{モル濃度}(\text{mol}/l) = \frac{\text{溶質の物質質量}(\text{mol})}{\text{溶液の体積}(l)}$ として求められ、計算できる	A
	化学変化の量的関係	化学反応式	化学反応における反応物と生成物の関係を化学式を用いて表した式で、目視法や未定係数法で求められ、反式を作ることができる	A
		係数	化学反応式において反応に関係する原子数を最も簡単な整数比で表した数値のことで、物質質量、質量、分子数、体積など量的関係を計算することができる	A
		化学の基本法則	質量保存の法則、定比例の法則、倍数比例の法則は原子説で説明でき、気体反応の法則、アボガドロの法則は分子説で説明できることを知る	C
化学反応と熱	反応熱と熱化学方程式	反応熱	化学反応に伴って出入りする熱量で、反応物のもつエネルギーと生成物のもつエネルギーの差であることを理解する	A
		発熱反応と吸熱反応	熱の発生を伴う反応を発熱反応、熱の吸収を伴う反応を吸熱反応ということを理解する	A
		熱化学方程式	化学反応式に反応熱を書き加えたエネルギーに関する等式であることを理解し、この式を作ることができる	A
		反応熱の種類	反応熱には、燃焼熱、中和熱、溶解熱、生成熱、蒸発熱などがあることを知る	B
	ヘスの法則	熱量	熱量 Q (J) = 質量 m (g) × 比熱 c (J/(g・°C)) × 温度差 t (°C) によって求められることを理解し、計算することができる	A
		比熱 (比熱容量)	物質1 g の温度を1°C上昇させるのに必要な熱量のことであることを知る	B
		熱運動	物質を構成する粒子の不規則な運動のことで、温度が高いほど活発になることを知る	C
		ヘスの法則 (総熱量保存の法則)	反応熱は反応の経路によらず、反応のはじめの状態と終わりの状態で決まるということを理解し、この法則により反応熱を計算により求めることができる	A
		生成熱の利用	反応熱 = (生成物の生成熱の和) - (反応物の生成熱の和) によっても反応熱を求められる	B

生物の基礎・基本

1. 細目数

分類		A	B	C	細目数計
1 学年 (1 単位)	細胞から個体へ	9	1	0	10
	生殖と発生	1	1	0	2
	遺伝	4	1	0	5
	生命現象と物質	4	3	0	7
	内部環境と恒常性	7	1	0	8
	環境と植物の反応	2	1	0	3
細目数計		27	8	0	35

2. 分類とそれらの内容

1 / 2

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
細胞から個体へ	細胞のはたらきと構造	生物の基本単位	細胞は生物の構造やはたらきの基本単位であることがわかる。 ミクロの世界の長さの単位 (μm , nm , \AA) や微生物などの大きさを説明できる。	A
		細胞のはたらきと構造	細胞の基本的な構造とはたらきが理解できる。 動物細胞と植物細胞の違いを理解できる。	A
		細胞膜の性質とはたらき	物質の拡散と浸透、全透性と半透性、浸透圧・膨圧・吸水圧の関係が理解できる。 受動輸送と能動輸送のしくみがわかる。	A
		酵素のはたらき	酵素の触媒作用が理解できる。細胞内外ではたらく酵素があることがわかる。基質特異性について説明できる。	B
	細胞分裂	細胞の増殖	細胞分裂には、体細胞分裂と減数分裂があることがわかる。 体細胞分裂の進み方、動物と植物で違いがあることを理解できる。	A
		染色体の形状と数	染色体の形、数は種によって一定であること、両親に由来する同形同大の相同染色体があることが理解できる。細胞が自己複製する過程が理解できる。	A
		細胞の分化	多細胞生物のさまざまな種類の細胞がどのようにして出来るかが理解できる。 体細胞分裂と分化について理解できる。	A
	生物のからだと細胞	単細胞生物と多細胞生物	単細胞生物の生き方について理解できる。 多細胞生物のつくりについて説明できる。	A
		動物のからだのつくりとはたらき	ヒトのからだは、どのように形成されているかを理解できる。	A
		植物のからだのつくりとはたらき	種子植物のからだはどのように形成されているのかを説明できる。	A
生殖と発生	生殖	無性生殖と有性生殖	無性生殖と有性生殖とは、どのような生殖かを理解できる。	A
		減数分裂	減数分裂とは、2セットの染色体をもつ母細胞 ($2n$) が1セットの染色体をもつ娘細胞 (n) をつくる分裂であることを理解できる。	B
遺伝	遺伝のしくみ	メンデルの法則	優性・分離・独立の法則を理解し、遺伝子型の推定や遺伝の確率の計算ができる。 複対立遺伝子、補足遺伝子、条件遺伝子などの遺伝のしくみがわかる。	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
遺伝	遺伝のしくみ	連鎖と組換え	連鎖・組換えのしくみがわかり、組換え価を計算し、その価から染色体地図を描ける。	A
		性と遺伝	性染色体の存在、性の決定や伴性遺伝のしくみがわかる。	A
		環境変異	環境の影響による遺伝しない変異であることがわかる。	B
		突然変異	染色体や遺伝子の変化による変異で、生殖細胞で起こると遺伝すること、変化の仕方によりいろいろな種類があることが理解できる。 突然変異はX線などにより起こりやすくなることが理解できる。	A
生命現象と物質	形質発現と核酸	遺伝子の本体	アベリーの実験などから、遺伝子の本体はDNAであることが理解できる。 DNAの二重らせん構造とその暗号性がわかる。	A
		タンパク質	タンパク質の構造の多様性と反応の特異性が理解できる。	A
		遺伝暗号	遺伝暗号の解読法を理解し、mRNAの遺伝暗号表が活用できる。	A
		遺伝情報の発現	転写・本訳のしくみ、遺伝子突然変異はDNAの塩基配列の変化であることなどがわかる。	A
		遺伝子発現の調節	調節遺伝子・調節タンパク質による制御のしくみが理解できる。	B
		遺伝子の操作	遺伝子組換え技術、クローン動物（動物工場）、遺伝子治療などの概要が理解できる。	B
		細胞の操作	細胞融合、ES細胞、組織幹細胞、バイオリアクターなどの概要が理解できる。	B
内部環境と恒常性	内部環境と体液	内部環境	各細胞を取り巻く体液すなわち内部環境を理解できる。	A
		循環系	体液によって栄養分や酸素を体の奥にある細胞まで運び、老廃物などを排出するしくみについて理解できる。	B
		恒常性（ホメオスタシス）	生体には内部環境を一定に保とうとするはたらき、恒常性について理解できる。	A
	免疫のしくみ	体液性免疫	体液性免疫のしくみ、二次応答、抗体分子の多様性、ワクチンなどについて理解できる。	A
		細胞性免疫	細胞性免疫のしくみ、臓器移植における拒絶反応、主要組織適合抗原などについて理解できる。	A
	自律神経系と内分泌系	自律神経系による調節	交感神経、副交感神経とそれぞれのはたらきを理解できる。	A
		内分泌系による調節	ホルモンの種類と体内でのその理解できる。	A
自律神経系と内分泌系の調節		自律神経系とホルモンとの協調作用で行われるからだの調節を理解できる。	A	
環境と植物の反応	植物の生活と環境	植物の生育の条件	環境要因としての水と光の役割が理解できる。 光合成や呼吸と酵素と温度の関係を理解できる。	A
		水の循環	植物が生命活動を営むのに不可欠な物質である水が、根から吸収され、植物全体に運ばれていくしくみについて理解できる。	B
		光合成と環境条件	光合成に関係する環境要因である光の強さ、温度、二酸化炭素濃度の影響について理解できる。	A

保健体育 の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1年生 (男子) 2単位	基礎的な動き	10	4	1	15
	実技	57	12	0	69
	理論	13	6	0	19
細目数計		80	22	1	103

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
基礎的な動き	スポーツ	運動能力テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持久走(1500m)、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ ・ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび ・ 測定結果に基づく自己評価と診断方法 	A
		体力診断テスト		A
診断と評価	A			
基礎的な動き	集団行動	姿勢と礼	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気をつけの姿勢、休めの姿勢 ・ 気をつけの姿勢からの礼 ・ 右(左)への方向変換 ・ 後への方向変換 ・ 縦隊の集合と整とん、横隊の集合と整とん ・ 番号、解散 ・ 2列横隊から4列縦隊、4列縦隊から2列横隊 ・ 2列横隊から3列縦隊、3列縦隊から2列横隊 ・ 両手距離・間隔に開く ・ 片手距離・間隔に開く ・ 歩、歩の停止、走、走の停止 ・ 先頭から順に方向変換、全員同時に方向変換 	A
		方向変換		A
		集合、整とん		A
		番号、解散		B
		列の増減		C
		開列		A
		行進		B
実技	ソフトボール	スローイング	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーバースロー ・ 基本姿勢及びグラブさばき、体の正中線で捕球 ・ 構え方、スイング、グリップ ・ スリングショットモーション ・ 先攻・後攻の決定、試合の開始、 ・ 球審の任務、塁審の任務、審判員のセスター 	A
		キャッチング		A
		バッティング		A
		ピッチング		A
		試合の進め方 審判法		A
	水泳	クロール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 姿勢づくり、けのび、キック(足・脚の動作) ・ プル(手・腕の動作)、息つき ・ キック、プル、息つき ・ 姿勢づくり、キック、プル、息つき ・ 泳がないで(ハスタル・竹竿・ブイを使って、ヒューマンフエーン) ・ 泳いで(胸をかかえて、髪をつかんで、頭を両手で支えて) ・ クロール、平泳ぎ、背泳ぎの25m泳計測 	A
		平泳ぎ		A
		背泳ぎ		A
		救助法		A
		25m泳計測		A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技	陸上競技	短距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウチングスタート、中間疾走、フィニッシュ ・タイムトライアル(100m記録測定) 	A A	
		リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・後方を見ながらもらうバトンパス、バトンの持ち替え ・後方を見ないで受け取るバトンパス ・トップスピードでのバトンパス ・走者順の決定（作戦をたてる） 	A B B A	
		バレーボール	パス	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス(ボールと指の関係、ボールをとらえる位置と姿勢を確認する) ・アンダーハンドパス 	A A
			サービス トス	<ul style="list-style-type: none"> ・アンダーハンドサービス、サイドハンドサービス(確実に) ・自分で投げあげたボールの足踏キャッチとトス ・投げてもらったボールのトス(色々な角度から) ・パスを受けてからのトス(落下地点に動いて) 	A A A B
			スパイク	<ul style="list-style-type: none"> ・手の形や肘ののびし、手首の使い方を覚える ・助走と踏み込み(2歩助走) 	A B
	レシーブ 三段攻撃 フォーメーション		<ul style="list-style-type: none"> ・構えの姿勢、低いボール・高いボール・横へきたボールの時 ・レシーブ、パス(トス)、アタックを織り交ぜた初歩的な三段攻撃 ・基本的なサービスレシーブフォーメーションの一つである、1・5W7フォーメーションの理解と実践 	A A A	
	ゲームの進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・チームの構成、セット開始時のサービス、得点とローテーション、主審、副審、線審の役割と内容について理解 	A	
	審判とルール		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス関係の反則(フットフォール、ローテーションの反則) ・ボールプレイ関係の反則(ホルディング、トリブル、オーバータイム) ・ポジション関係の反則(ポジションフォール) ・ネット・コート関係の反則(タッチネット、オーバーネット、パッシング) 	A A B B	
	バスケットボール		オフェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートのタイプ(ランニング系:ワンハンド・レイアップシュート、スタンディング系:ホースハンド・セットシュート、ジャンプ系:ワンハンド・ジャンプシュート)の理解と練習 ・パス(チェストパス、オーバーハンドパス、バウンドハンドパス、サイドハンドパス、ショルダーパス)とキャッチ(ミートキャッチ)の技術習得 ・トリブル(連続トリブル、その場トリブル、方向変換) 	A A A
			ディフェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っている人に対する守り方(スタンス、スタップ、シュートチェック) 	A
		オーバーナンパ-の攻め方	<ul style="list-style-type: none"> ・2対1からノーマークをつくる→2対1=(1対1)+1対0 ・3対2からノーマークをつくる→(1対1)+(1対1)+1対0 	A B	
		ゲームの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・競技時間とタイムアウト ・ゲームの始め方と終わり方 ・シュートのゴールと得点 	A A A	
		審判とルール	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイレーション(プレイを規定するルール、時間やエリアを制限するルール)の理解《相手チームにスローインが与えられる》 ・プレイを規定するルール(キックボール、トラベリング、ダブルトリブル) ・時間やエリアを制限するルール(3秒ルール、5秒ルール、8秒ルール、24秒ルール、アウトオブバウンズ、バックパスルール) ・身体接触のルール(パーソナルファウル、ダブルファウル) ・非スポーツマン的行為に関するルール(テクニカルファウル) ・主審・副審の役割と動きについて 	A A A B A A A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分		
実技	サッカー	基礎技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールコントロール(フックアップ、リフティング) ・ドリブル(インサイド、アウトサイド、足の裏、右足だけ、左足だけ:ジグザグドリブル、8の字ドリブル) ・とめる(ストップングとトラッピング)《インサイド、胸、太腿、インステップ、インサイド》 ・キック(インサイドキック、インステップキック) ・ヘディング(スタンディングヘディング) ・スローイン(両足が地面から離れない、頭の後方から頭上を通して投げる) 	A A A A A		
		シュート	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な方向からのドリブルシュート ・ボールを止めて(コントロールして)からのシュート ・センターリングシュート(ボールを送る場所とシュートに入る位置を確認) 	A B B		
		パス	<ul style="list-style-type: none"> ・2人組によるトライアングルパスの理解と練習 ・3対1(オフェンス3、ディフェンス1)のパスによるボールキープ 	A B		
		守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ラインディフェンス(マンツーマンとゾーン)の理解 ・スリーバックシステムとポジションの役割を理解 	A A		
		ゲームの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易ゲーム9対9、8対8、7対7のゲームの理解 	A		
		連携プレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーンパターでの2(fw)対1(df)の攻守の理解と練習 	A		
		審判とルール	<ul style="list-style-type: none"> ・主審と副審の任務と役割 ・ゲームの進め方(キックオフ、スローイン、ゴールキック、コーナーキック、フリーキック、ペナルティキック、ドロップボール) ・主なルール(反則と不正行為)で直接フリーキックと間接フリーキックになる反則の理解 ・オフサイドルール(オフサイドポジション)の理解 	A A A A A A A B		
		理論	健康づくりの運動	スポーツの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年増加傾向にある肥満児について ・運動不足病について 	A A
				スポーツの効用	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係(社会性)との関係性 ・発育・発達・老化の遅延について ・骨格、骨格筋への効用 ・循環器系、呼吸機能への効果 ・精神的緊張の緩和 	A A A A A
				生涯スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの楽しみ方 ・豊かなスポーツライフの実現 	A B
飲酒・喫煙	アルコール飲料と健康		<ul style="list-style-type: none"> ・アルコール飲料の種類(醸造酒、蒸留酒、混成酒) ・アルコールの吸収と代謝 ・アルコール障害(アルコール依存症とアルコール精神病、アルコールと臓器障害、急性アルコール中毒) ・女性と飲酒(妊娠と飲酒の害:胎児性アルコール症候群) 	B B A A		
	タバコと健康		<ul style="list-style-type: none"> ・未成年者と飲酒、喫煙の歴史 ・喫煙の実態 ・タバコの有害化学物質(発ガン物質、一酸化炭素、ニコチン、刺激性物質、ニコチン依存症) ・タバコが及ぼす健康障害 ・女性と喫煙(特に妊婦と喫煙の害) ・タバコ対策(概況と新たな展開、今後のタバコ対策) 	A A B B A A A B		

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
理論	AED 使用法	AED	<ul style="list-style-type: none"> ・ AEDとは ・ AEDの必要性和校内及び学校外に設置してある場所の確認 ・ AEDの使用法 	A A A
		自己価値の自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生殖機能の概要の理解 ・ 自尊心を育む 	A B
		性周期の性差	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生殖機能の正常維持を図るための保健行動の必要性 ・ 心理的性差の理解 	A A
	性教育	性的欲求の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人格を高め助け合う男女関係の構築 ・ 望ましい性行動の形成 	A B
		性の健康の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性的欲求に関するノーマライゼーションの理解 ・ 差別的ジェンダーの払拭 ・ 性同一性障害をめぐる現状の理解 	B A B
		自己決定能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の中絶状況を理解し、女性の置かれた実情を知る ・ 女性の人権尊重と生命尊厳の意識を高める ・ 各国の中絶の法的規制を理解し、人権尊重・生命尊厳の法整備を考える 	A B
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠中絶や性感染症の現状の理解 ・ コンドーム装着法、緊急避妊法、中絶後の管理に関する技法の習得 	B A

保健体育 の基礎基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1年生 (女子) 2単位	基礎的な動き	11	3	1	15
	実技	63	17	0	80
	理論	23	13	0	36
細目数計		97	33	1	131

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
基礎的な動き	スポーツテスト	運動能力テスト	・持久走(1500m)、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ	A	
		体力診断テスト	・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび	A	
		診断と評価	・測定結果に基づく自己評価と診断方法	A	
	集団行動	姿勢と礼	・気をつけの姿勢、休めの姿勢 ・気をつけの姿勢からの礼	A A	
		方向変換	・右(左)への方向変換 ・後への方向変換	A A	
		集合、整とん番号、解散	・縦隊の集合と整とん、横隊の集合と整とん	B	
		列の増減	・番号、解散 ・2列横隊から4列縦隊、4列縦隊から2列横隊	C A	
		開列	・2列横隊から3列縦隊、3列縦隊から2列横隊 ・両手距離・間隔に開く	A B	
		行進	・片手距離・間隔に開く ・歩、歩の停止、走、走の停止	A A	
			・先頭から順に方向変換、全員同時に方向変換	B	
実技	ダンス	ダンスを理解する 基本の動き 動きづくり	・ダンスの歴史と特性 ・歩く、走る、回る、回す、跳ぶ、伸びる・縮む ・歩く+回る+止まる、歩く+走る+跳ぶ	A A A	
		小作品づくり	・少人数のグループ ・いくつかの動きの連続をリズムに踊る ・与えられたイメージを動きに置き換える ・音からイメージを引き出し、動きに置き換える ・色からイメージを引き出し、動きに置き換える	A B B B	
		作品づくりとまとめ	・グループで小作品を創作する ・グループ・テーマ設定 ・創作、踊り込み、見直し、踊り込み、作品完成 ・作品発表、鑑賞、評価	A A A A	
		水泳	クロール	・姿勢づくり、けのび、キック(足・脚の動作) ・プル(手・腕の動作)、息つき	A A
			平泳ぎ	・キック、プル、息つき	A
	背泳ぎ		・姿勢づくり、キック、プル、息つき	A	
	救助法		・泳がないで(バスタオル・竹竿・ブイを使って、ヒューマンチェーン) ・泳いで(胸をかかえて、髪をつかんで、頭を両手で支えて)	A A	
		25m泳計測	・クロール、平泳ぎ、背泳ぎの25m泳計測	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分	
実技	陸上競技	短距離走	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウチングスタート、中間疾走、フィニッシュ ・タイムトライアル(100m記録測定) 	A A	
		リレー	<ul style="list-style-type: none"> ・後方を見ながらもらうバトンパス、バトンの持ち替え ・後方を見ないで受け取るバトンパス ・トップスピードでのバトンパス ・走者順の決定（作戦をたてる） 	A B B A	
		バレーボール	パス	<ul style="list-style-type: none"> ・オーバーハンドパス(ボールと指の関係、ボールをとらえる位置と姿勢を確認する) ・アンダーハンドパス 	A A
			サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・アンダーハンドサービス、サイドハンドサービス(確実に) 	A
			トス	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で投げあげたボールの足踏キヤッチとトス ・投げてもらったボールのトス(色々な角度から) ・パスを受けてからのトス(落下地点に動いて) 	A A B
	スパイク		<ul style="list-style-type: none"> ・手の形や肘ののびし、手首の使い方を覚える ・助走と踏み込み(2歩助走) 	A B	
	レシーブ		<ul style="list-style-type: none"> ・構えの姿勢、低いボール・高いボール・横へきたボールの時 	A	
	三段攻撃		<ul style="list-style-type: none"> ・レシーブ、パス(トス)、アタックを織り交ぜた初歩的な三段攻撃 	A	
	フォーメーション		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なサービスレシーブフォーメーションの一つである、1・5W7 	A	
	ゲームの進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・チームの構成、セット開始時のサービス、得点とローテーション、 	主審、副審、線審の役割と内容について理解	A
	審判とルール		<ul style="list-style-type: none"> ・サービス関係の反則(フットフォール、ローテーションの反則) ・ボールプレイ関係の反則(ホールディング、トリプル、オーバータイム) ・ポジション関係の反則(ポジショナルフォール) ・ネット・コート関係の反則(タッチネット、オーバーネット、パッシング) 	A A B B	
	バスケットボール		オフェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・シュートのタイプ(ランニング系:ワンハンド・レイアップシュート、スタンディング系:ホースハンド・セットシュート、ジャンプ系:ワンハンド・ジャンプシュート)の理解と練習 ・パス(チェストパス、オーバーハンドパス、バウンダーハンドパス、サイドハンドパス、ショルダーパス)とキヤッチ(ミートキヤッチ)の技術習得 ・トリプル(連続トリプル、その場トリプル、方向変換) 	A A A
		ディフェンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを持っている人に対する守り方(スタンス、スタップ、シュートチェック) 	A	
		オーバーザンパ-の攻め方	<ul style="list-style-type: none"> ・2対1からノ-マークをつくる→2対1=(1対1)+1対0 ・3対2からノ-マークをつくる→(1対1)+(1対1)+1対0 	A B	
		ゲームの進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・競技時間とタイムアウト ・ゲームの始め方と終わり方 ・シュートのゴールと得点 	A A A	
		審判とルール	<ul style="list-style-type: none"> ・バ-イレーション(プレイを規定するルール、時間やエリアを制限するルール)ルールの理解《相手チームにスローインが与えられる》 ・プレイを規定するルール(キックボール、トラベリング、ダブルドリブル) ・時間やエリアを制限するルール(3秒ルール、5秒ルール、8秒ルール、24秒ルール、アウトオブバ-ウンス、バックハ-スルール) ・身体接触のルール(パーソナルファ-ウル、ダブルファ-ウル) ・非スポーツマン的行為に関するルール(テクニカルファ-ウル) ・主審・副審の役割と動きについて 	A A B A A A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
実技	バドミントン	ラケットの握り方	・ イースタングリップ（両面）、ウエスタングリップ（片面）	A
		サービス	・ ロングサービス（フォアハンド）、ショートサービス（フォアハンド）	A
		ストローク	・ オーバーヘッドストローク（フォア、バック）	A
			・ サイドアームストローク（フォア、バック）	A
			・ アンダーハンドストローク（フォア、バック）	A
		フラインの種類とその理解	・ ハイクリアー、ドライブンクリアー、ロブ、ウィップ、ドロップ、ドライブ	A
		ダブルスのフォーメーションの理解	・ トップ（フロント）アンドバック（前後陣形）	A
			・ サイドバイサイド（並列陣形）	A
		競技方法と審判	・ シングルスとダブルスのコートの理解（サイドラインとサービスエリア）	A
			・ ゲームの開始、スコアリング	A
		・ シングルスとダブルスのゲームの進め方	A	
卓球	卓球	ラケットの種類とグリップ	・ ペンホルダーグリップ（片面使用）	A
			・ シェークハンドグリップ（両面使用）	A
		ボールコントロール	・ 1人でのボールつき、壁打ち、羽根つき式ボールつき	B
		基礎技術	・ サービス（ナックルサービス《フォアハンド》、ドライブサービス《フォアハンド》）	B
			・ フォアハンドロングストローク	A
			・ スマッシュ	B
			・ バックハンドショート（ペンホルダーグリップ）	B
		ラリー練習	・ ラリーゲーム、グループ対抗ラリーゲーム（続けることが目的なので、相手の打ちやすいところに打つ）	A
		フットワーク	・ 規則的な左右打ち、3つのコース打ち	A
			・ クロスとストレート打ち、前後移動打ち	B
競技の進め方	・ ダブルスのサービスとレシーブのし方を理解する	B		
	・ サービスのルールを理解（ボールを投げ上げる手は平ら、16cm以上の高さに投げ上げたボールが頂点に達した後で打つ・ラケットもボールをのせた手も台より下に下がってはいけない）	A		
	審判法	・ レディ、競技開始、得点、フェンジサービス	A	
理論	飲酒・喫煙	アルコール飲料と健康	・ アルコール飲料の種類（醸造酒、蒸留酒、混成酒）	B
			・ アルコールの吸収と代謝	B
			・ アルコール障害（アルコール依存症とアルコール精神病、アルコールと臓器障害、急性アルコール中毒）	A
			・ 女性と飲酒（妊娠と飲酒の害：胎児性アルコール症候群）	A
			・ 未成年者と飲酒、喫煙の歴史	A
		タバコと健康	・ 喫煙の実態	B
			・ タバコの有害化学物質（発ガン物質、一酸化炭素、ニコチン、刺激性物質、タバコ依存症）	B
			・ タバコが及ぼす健康障害	A
			・ 女性と喫煙（特に妊婦と喫煙の害）	A
			・ タバコ対策（概況と新たな展開、今後のタバコ対策）	B
AED使用法	AED	・ AEDとは	A	
		・ AEDの必要性和校内及び学校外に設置してある場所の確認	A	
		・ AEDの使用方法	A	

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
理論	健康づくりの運動	スポーツの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年増加傾向にある肥満児について ・ 運動不足病について ・ 人間関係（社会性）との関係性 	A A A
		スポーツの効用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発育・発達・老化の遅延について ・ 骨格、骨格筋への効用 ・ 循環器系、呼吸機能への効果 ・ 精神的緊張の緩和 	A A A A
		生涯スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの楽しみ方 ・ 豊かなスポーツライフの実現 	A B
	性教育	自己価値の自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生殖機能の概要の理解 ・ 自尊心を育む 	A B
		性周期の性差	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生殖機能の正常維持を図るための保健行動の必要性 ・ 心理的性差の理解 ・ 人格を高め助け合う男女関係の構築 ・ 望ましい性行動の形成 	A A A B
		性的欲求の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性的欲求に関するノーマライゼーションの理解 ・ 差別的ジェンダーの払拭 	B A
		性の健康の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性同一性障害をめぐる現状の理解 ・ 世界中絶状況等を理解し、女性の置かれた実情を知る ・ 女性の人権尊重と生命尊厳の意識を高める ・ 各国の中絶の法的規制を理解し、人権尊重・生命尊厳の法整備を考える 	B B A B
		自己決定能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊娠中絶や性感染症の現状の理解 ・ コンドーム装着法、緊急避妊法、中絶後の管理に関する技法の習得 	B A

美術 の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
1年生(2単位)	絵画とデザイン	14	8	6	28
細目数計		14	8	6	28

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分
絵画とデザイン	デッサン	線描力	鉛筆を使ったグラデーション	A
		表現材料	表現するためのいろいろな材料	A
	レタリング	観察力	文字のかたちを写す	B
		文字とデザイン	ゴシック体・明朝体	B
	色彩演習Ⅰ	色彩感覚	絵の具を使ったグラデーション	A
		シフティング	ずらし技法	B
	精密描写	名作鑑賞	有名な作品の模写	A
	表現技法	ドロッピング	したたり技法	C
		コラージュ	はり絵、パピエ・コレ	C
		フロッタージュ	こすりだし技法	C
	風景画	遠近法	距離感を出す・空気遠近法	A
		透視図法	一点透視法・二点透視法・三点透視法	A
	抽象化	発想力	アイデアを出すトレーニング	A
		構想力	アイデアをかたちにする	A
		簡略化	見やすくデザインする	B
	静物画	描写力	二次元の絵画による三次元(立体空間)の表現	B
	色彩演習Ⅱ	色相・彩度・明度	色による暑い、寒いなどの表現	A
		点描画	赤、青、黄のみを使い表現する	B
	生活の中のデザイン	テキスタイル	Tシャツから服地プリント	C
		工業デザイン	使いやすいかたち	A
		生活のかたち	伝統工芸から現代工芸	A
	心象風景	創造表現する力	見えるもの、見えないもの、心の中の風景など非現実的な世界	C
	立体デザイン	空間表現	三次元にての表現、立体、空間、彫刻インスタレーション	A
	人物画	明と暗	人を見つめて表情を出す 明暗を使い立体感を出す	C
	映像について	アニメーション	写真そして動く映像	A
	ポスター制作	メッセージの表現	人の心に届くように、どんな表現で何を伝えるか	A
		インパクト	目を引くもの、心に残るもの	B
		シンボルマーク	ひとめで意味がわかるかたち	B

英語 I ・ II ・ III の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
英語 I	1 学年 (2 単位)	4 技能	1 2	6	5	2 1
		文型	6	7	0	1 4
		文法	1 4	1 0	1 2	3 6
		その他	3	2	0	3
細目数計			3 5	2 5	1 7	7 6

			A	B	C	細目数計
英語 II	2 学年 (2 単位)	4 技能	1 4	6	2	2 1
		文型	9	4	0	1 4
		文法	2 2	1 1	3	3 6
		その他	3	2	0	3
細目数計			4 8	2 3	5	7 6

			A	B	C	細目数計
英語 III	3 学年 (2 単位)	4 技能	1 4	6	2	2 1
		文型	1 3	0	0	1 3
		文法	2 6	9	1	3 6
		その他	4	1	0	5
細目数計			5 7	1 6	3	7 6

2. 分類とそれらの内容

1 / 5

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
4 技能	聞くこと	聞き取り	英語を聞いて、語句や文を正しく聞き取ることができる。	A	A	A
		必要な情報を探して聞き取る	英語を聞いて、必要な情報を得ることができる。	A	A	A
		概要を把握する	英語を聞いて、概要や要点をまとめることができる。	C	B	B
	読むこと	探し読み	まとまりのある文章を読んで、必要な情報を得ることができる。	A	A	A
		すくい読み	まとまりのある文章を読んで、概要や要点をまとめることができる。	A	A	A
		文の構造を捉えて読む	複雑な構造を持つ文や長い文の構造を捉え、文章全体の読みと解釈に役立てることができる。	A	A	A
		文同士の関係の把握	接続詞や語彙を手がかりに文同士の関係を捉えて読むことができる。	A	A	A
		段落読み	談話標識や段落同士の関係を手がかりに、まとまった量の文章の概要や要点を把握することができる。	B	B	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
4 技能	読むこと	音読と黙読	目的や状況に応じて、音読や黙読など、適切な読み方を行うことができる。	A	A	A
		適切な読み方	目的や状況に応じて、速読や精読など、適切な読み方を行うことができる。	B	B	B
		書き手の意向を理解する	まとまった量の文章を読んで、書き手の意向などを理解し、それについて自分の考えをまとめたり伝えたりできる。	B	B	B
	話すこと	再生	英語を聞いたり読んだりして、その内容を正しく再生することができる。	A	A	A
		応答	質問に英語で正しく答えることができる。	A	A	A
		発表	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、発表することができる。	C	B	A
		話し合い	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりできる。	C	B	A
	書くこと	再生	英語を聞いて、語句や文を正しく書くことができる。	A	A	A
		応答	質問の答えを書くことができる。	A	A	A
		文の構造を捉えて書く	構造や文型に気をつけて文を書くことができる。	A	A	A
		文同士の関係の把握	接続詞や語彙の繋がりを考慮して文章を書くことができる。	B	A	A
		段落単位の文章を書く	談話標識や段落同士の関係に気をつけて文章を書くことができる。	C	C	C
		まとめて書く	聞いたり読んだりしたことやそこから得た情報の、概要や要点をまとめて書くことができる。	B	A	A
		考えを整理して書く	聞いたり読んだりして得た情報や自分の考えなどについて、整理して書くことができる。	C	C	C
	文型	S+V	五文型	第1文型の基本的な構造と性質について理解し、適切に使用することができる。	A	A
S+V+C			五文型	第2文型の基本的な構造と性質について理解し、適切に使用することができる。	A	A
S+V+C		V=be 以外の動詞 C=現在/過去分詞	V=be 動詞以外の場合、C=現在分詞・過去分詞の場合の第3文型の用法について理解し、適切に使用することができる。	B	A	A
		S+be+that/whether/why 節	C=節の場合の第3文型の用法について理解し、正しく使用することができる。	B	B	A
		S+seem 等+to 不定詞	V=seem 等、様態を表す動詞の場合の第3文型の用法について理解し、正しく使用することができる。	B	B	A
S+V+O		五文型	第3文型の基本的な構造と性質について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		O=if/whether 節	O=if/whether 節の場合の第3文型の用法について理解し、正しく使用することができる。	B	B	A
S+V+IO+DO		五文型	第4文型の基本的な構造と性質について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		DO=if/whether 節 または DO=疑問詞節	O=if/whether 節・疑問詞節の場合の第4文型の用法について理解し、正しく使用することができる。	B	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
文型	S+V+O+C	五文型	第5文型の基本的な構造と性質について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		C=現在/過去分詞	C=現在分詞・過去分詞の場合の第4文型の用法について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		C=原形不定詞	C=原形不定詞の場合の第4文型の用法について理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
	意味上の主語	it	状況の it や意味上の主語について理解することができる。	B	A	A
文法	受動態	受動態と能動態	受動態と能動態の関係について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		助動詞と受動態	助動詞と共起した場合の受動態の構造や意味について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		進行形の受動態	進行形の受動態の構造、意味、用法について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		受動態と時制	過去完了や未来表現での受動態の構造、意味、用法について理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
	不定詞	副詞的用法	目的、感情の原因・理由、程度、結果という用法の違いについて理解し、状況に応じて適切に使い分けることができる。	A	A	A
		完了不定詞	完了の have が不定詞として使用される場合についてその構造や意味を理解し、正しく使用することができる。	B	B	B
	動名詞	動名詞	動名詞の名詞としての役割について理解し、主語、動詞の目的語、前置詞の後に出現する動名詞の意味と用法について正しく使用することができる。	A	A	A
	動名詞と不定詞	動名詞と不定詞	動名詞と不定詞が包含する概念や用法の違いについて理解し、適切に使い分けることができる。	B	A	A
	分詞の形容詞的用法	現在分詞	現在分詞の持つ能動的な意味と用法について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
		過去分詞	過去分詞の持つ受動的な意味と用法について理解し、適切に使用することができる。	A	A	A
	分詞構文	現在分詞	分詞構文(現在分詞)の意味について理解すると共に、付帯状況・時・理由・譲歩という4つの用法について理解し適切に使い分けることができる。	C	A	A
		過去分詞	分詞構文(過去分詞)の意味について理解すると共に、付帯状況・時・理由・譲歩という4つの用法について理解し適切に使い分けることができる。	C	A	A
		独立分詞構文	独立分詞構文の構造と用法について理解し、正しく使用することができる。	C	B	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
文法	接続詞	節を導く接続詞	名詞節・副詞節を導く接続詞の意味や用法について理解し、文脈に応じて適切に使用することができる。	A	A	A
		that	主語・補語・目的語それぞれの用法について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		if/whether, because…	because 以下が主語・補語・目的語であるそれぞれの用法について理解し、正しく使用することができる。	B	B	A
	関係代名詞	制限的用法	主格・目的格・所有格の構造と用法について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		関係代名詞 what	先行詞がない関係代名詞の用法について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		非制限的用法	関係代名詞の非制限用法について理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		前置詞 + 関係代名詞	前置詞を伴う関係代名詞の構造と用法について理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
		前文を受ける関係代名詞	文同士の関係と関係代名詞の役割について理解し、適切に使用することができる。	C	B	B
	関係副詞	制限的用法	where (場所)・when (時)の制限的用法について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A
		非制限的用法	where (場所)・when (時)の非制限的用法について理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	時制	完了	過去/現在/未来の完了についてその構造と意味、使用される状況の違いについて理解し、正しく且つ適切に使用することができる。	A	A	A
		完了進行	現在/過去/未来の完了進行形の構造と意味、使用される状況の違いについて理解し、正しく適切に使用することができる。	B	A	A
		仮定法	仮定法・仮定法過去/過去完了についてその構造と意味、使用される状況の違いについて理解し、正しく適切に使用することができる。	B	A	A
		助動詞の過去形	助動詞の過去形の持つ丁寧さ/自信のなさや仮定的な意味について理解し、適切に使用することができる。	B	B	B
		助動詞を使った過去表現	助動詞の過去形 + 完了形の構造と意味について理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
時制の一致	時制の一致	文脈や文内で用いられる時制の一致の構造について理解することができる。	B	B	A	
比較	原級, 比較級, 最上級の対応	原級/比較級/最上級を用いた比較表現について理解し、正しく使用することができる。	A	A	A	
	原級を用いた比較表現・比較級を用いた最上表現	原級を用いた比較級や比較級を用いた最上級の表現について理解し、正しく使用することができる。	C	B	B	

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
文法	話法	直接・間接話法	話法の違いについて理解し、適切且つ効果的に使用することができる。	C	C	B
		否定	否定の範囲	否定辞が否定する範囲について理解し、正しく使用することができる。	C	B
	強調構文	強調構文	強調構文の構造や効果について理解することができる。	C	C	B
	無生物主語	無生物主語	無生物主語を持つ文の構造や考え方について理解することができる。	C	B	B
		倒置	倒置	倒置が起こる場合や用法、意味について理解することができる。	C	C
その他	辞書の使い方	辞書の使い方	辞書の特徴と使用方法について理解し、学習に役立てることができる。	A	A	A
	発音記号	発音記号	IPA記号について理解し、読んだり書いたりできる。	B	B	B
	筆記体学習	筆記体学習	アルファベットの筆記体を読んだり書いたりできる。	B	B	A

英文法 I・II・III の基礎・基本

1. 細目数

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 I	1 年生 (1 単位)	基礎	15	7	30	52
		発展	0	1	15	16
細目数計			15	8	45	68

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 II	2 年生 (2 単位)	基礎	19	33	0	52
		発展	0	16	0	16
細目数計			19	49	0	68

		分類	A	B	C	細目数計
英文法 III	3 年生 (2 単位)	基礎	52	0	0	52
		発展	16	0	0	16
細目数計			68	0	0	68

2. 分類とそれらの内容

1 / 4

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分 英文 I	区分 英文 II	区分 英文 III	
基礎	5 文型	SV, SVC, SVO, SV00, SVOC	5 文型の特徴を理解し、正しく分類することができる。	A	A	A	
	文の種類	平叙/疑問/命令/ 感嘆	平叙/疑問/命令/感嘆の各文の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A	
	動詞	動詞活用	動詞を正しく活用することができる。	A	A	A	
	時制	現在	現在	現在時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			過去	過去時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			未来	未来時制の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
	進行形	現在	現在	現在進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			過去	過去進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
			未来	未来進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
	完了形	現在	現在	現在完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
			過去	過去完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
			未来	未来完了形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分 英文 I	区分 英文 II	区分 英文 III
基礎	完了 進行形	現在	現在完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		過去	過去完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		未来	未来完了進行形の特徴を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
	助動詞	助動詞としての be, have, do	助動詞としてのbe, have, doを理解し、使用することができる。	A	A	A
		can / could, may / might, must, will, would, shall, should	各助動詞の特徴を理解し、正しく使用することができる。	B	A	A
		ought to, used to, need, had better, dare	各助動詞の特徴を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		助動詞+完了形	助動詞+完了形の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		受動態	平叙/疑問/否定	受動態の平叙文/疑問文/否定文を作ることができる。	A	A
		by動作主の省略	by動作主の省略を理解する。	A	A	A
		群動詞・by以外	群動詞やby以外の前置詞を正しく使用することができる。	C	B	A
		第4文型	第4文型を受動態にすることができる。	C	B	A
		助動詞	助動詞を含む構文を受動態にすることができる。	C	B	A
		進行形・完了形	進行形や完了形の構文を受動態にすることができる。	C	B	A
	不定詞	基本3用法	不定詞の基本的な3つの用法を理解し、分類できる。	A	A	A
		意味上の主語	不定詞の意味上の主語を理解する。	C	B	A
		原形不定詞	原形不定詞の構文を作ることができる。	C	B	A
		不定詞の表す時	不定詞の表す「時」を理解する。	C	B	A
		受動態・進行形・ 否定	受動態、進行形、否定を含む不定詞を理解し、作ることができる。	C	B	A
		疑問詞+ to do	疑問詞+ to doの用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		be + to do	be + to doの用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
	分詞	形容詞的用法(限 定・叙述)	分詞の形容詞的用法(限定・叙述)を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		分詞構文	分詞構文の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		独立分詞構文	独立分詞構文の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分英文 I	区分英文 II	区分英文 III
基礎	動名詞	基本用法	動名詞の基本的な用法を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
		意味上の主語	動名詞の意味上の主語を理解する。	C	B	A
		受動態・否定	受動態、否定を含む動名詞を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の用法を理解する。	C	B	A
	比較	基本用法	原級/比較級/最上級の用法を理解し、文を作ることができる。	A	A	A
		重要構文	比較に関する重要構文を理解し、使用することができる。	C	B	A
	関係詞	関係代名詞の基本用法	関係代名詞 (who, whose, whom, which, that) の用法を理解し、使用することができる。	A	A	A
		関係代名詞what	関係代名詞whatの用法を理解し、使用することができる。	B	A	A
		前置詞+関係代名詞	前置詞+関係代名詞の文を作ることができる。	B	A	A
		関係副詞	関係副詞 (where, when, how, why) の用法を理解し、使用することができる。	C	B	A
		制限・非制限用法	関係代名詞の制限・非制限用法を理解する。	C	B	A
		関係詞の省略	先行詞や関係詞の省略を理解する。	C	B	A
		複合関係代名詞・複合関係副詞	複合関係代名詞 (whoever, whatever, whichever) と複合関係副詞 (wherever, whenever) の用法を理解し、使用することができる。	C	B	A
	仮定法	仮定法現在	仮定法現在の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		仮定法過去	仮定法過去の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		仮定法過去完了	仮定法過去完了の用法を理解し、文を作ることができる。	C	B	A
		慣用表現	仮定法の慣用表現を理解し、使用することができる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	区分英文 I	区分英文 II	区分英文 III
発展	句と節	句と節	句と節を理解し、両者を正しく書き換えることができる。	C	B	A
	接続詞	等位接続詞	and, but, or, so 等の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
		従属接続詞	時、原因・理由、条件、目的等の接続詞を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	前置詞	前置詞	前置詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	冠詞	冠詞	冠詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	代名詞	代名詞	代名詞の意味を理解し、使い分けることができる。	C	B	A
	名詞	名詞	名詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	形容詞	形容詞	形容詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	副詞	副詞	副詞の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	数の一致	数の一致	数の一致を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	同格	同格	同格の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	否定	否定	否定の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	無生物主語	無生物主語	無生物主をの構文を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	話法	話法	話法の用法を理解し、正しく話法の転換をすることができる。	C	B	A
	倒置	倒置	倒置の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	強調	強調	強調の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	同格	同格	同格の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	否定	否定	否定の用法を理解し、正しく使用することができる。	C	B	A
	無生物主語	無生物主語	無生物主をの構文を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A
	話法	話法	話法の用法を理解し、正しく話法の転換をすることができる。	C	B	A
倒置	倒置	倒置の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A	
強調	強調	強調の用法を理解し、正しい文を作ることができる。	C	B	A	

英語演習 I II III の基礎・基本

1. 細目数

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 I [1 学年 (2 単位)]	発音	1 5	2	2	1 9
	Speech, Speaking	3	0	5	8
	Listening	1	3	7	1 1
	表現	1 4	0	9	2 3
細目数計		3 3	5	2 3	6 1

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 II [2 学年 (1 単位)]	発音	1 7	2	0	1 9
	Speech, Speaking	3	4	1	8
	Listening	4	1	6	1 1
	表現	1 4	9	0	2 3
細目数計		3 8	1 6	7	6 1

	分類	A	B	C	細目数計
英語演習 III [3 学年 (1 単位)]	発音	1 9	0	0	1 9
	Speech, Speaking	7	0	1	8
	Listening	5	2	4	1 1
	表現	2 3	0	0	2 3
細目数計		5 4	2	5	6 1

2. 分類とそれらの内容

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
発音	ハミング発音 STEP1「音のエネルギー」	息の通り道	1-1「ダウン体操」1-2「深呼吸体操」 1-3「スプーン体操」1-4「のど仏体操」 ができる。	A	A	A
		息の出し方	2-1「息の移動体操」2-2「天井体操」 2-3「息の上昇体操」2-4「息の下降体操」 ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP2「音のための 筋肉」	口のストレッチ	1-1「スマイル体操」1-2「ほっぺ体操」1-3「鼻 の下体操」1-4「大らっぱ体操」1-5「小らっぱ 体操」1-6「下くちびる体操」1-7「ねずみ体操」 1-8「あごがまん体操」ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP2「音のための 筋肉」(つづき)	舌のストレッチ	2-1「アップ体操」2-2「パタパタ体操」 2-3「スライド体操」2-4「L体操」 2-5「舌先体操」2-6「R体操」 2-7「Rのハート体操」 2-8「ダウン→R体操」ができる。	A	A	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
発音 (つづき)	ハミング発音 STEP3「音の形」		①基本のロアップ ②基本のロダウン ③らっぱのロアップ ④らっぱのロダウン ⑤あくびのロダウン ⑥三角のロダウン ⑦くちぶえのロダウン ⑧スマイルのロダ ウン ⑨ねずみのロダウン ⑩ハミングの ロダウン ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP4「音のもと」	母音	母音 [a:] [ɔ:] [ɑ] [ʌ] [ə] [ɪ] [ʊ] [e] [i:] [æ] [aɪ] [aʊ] [ɔɪ] [eɪ] [ou] [u:] の発音 ができる。	A	A	A
		子音	子音 [h] [k] [g] [ŋ] [t] [d] [n] [θ] [ð] [ʃ] [ʒ] [ʒ] [ʒ] [s] [z] [f] [v] [p] [b] [m] ができる。	A	A	A
		Lの音	[əɫ]、母音+L、子音+L、先頭Lの発音 ができる。	A	A	A
		Rの音	[ə:r]、[ər]、アルファベットR、子音+R、 先頭Rの発音ができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP5「音の動き」	アルファベット (A～Z)	Aから順にZまで発音することができる。	A	A	A
	ハミング発音 STEP6「音の流れ」	文章	文章を、息を切らずに、一息で、一本の線で 結ばれるように発声できる。	B	A	A
	ハミング発音 STEP7「音の変化」	マーク1 (意味の薄い語が弱 い音となる時)	意味の薄い語を弱形で発音することができ る。	A	A	A
		マーク2 (消える音)	弱勢がおかれないhを消去することができ る。[ʌ] を発話で弱い箇所のときにアクセ ントのないあいまいな [ə] で発音するこ とができる。スピードのついた発話で、特 に弱い音節の [ə] を消去することができ る。	A	A	A
		マーク2・2 (聞こえなくな る音)	[k] [g] [p] [b] [t] [d] を聞こえなくな るように発音できる。[t] [d] + [θ] [ð] のとき [t] [d] を聞こえなくなるように 発音できる。	A	A	A
		マーク3 (音の切れ目が なくなり、つな がる時)	隣り合う音をくっつけて別の音に変化でき る。子音と母音を区切らず連続させて発音 できる。舌の省エネができる。	A	A	A
		マーク2+マー ク3 (同じ音、似た音 が並んだ場合)	同じ音、似た音を統合させる感じで発音でき る。	A	A	A
		STEP8「音の強弱」 ハミング発音	文章	文章を、強弱をつけて発音することができ る。	B	A
	暗唱文		暗唱文を正しい発音で読むことができる。	C	B	A
	応用文		どんな英文でも正しい発音で読むことが できる。	C	B	A

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
Speech, Speaking	Self Introduction (自己紹介)		英語で自己紹介できる。	A	A	A
	Dialogue (対話)		英語で相手と対話を発表できる。	A	A	A
	Recitation (暗唱)		英語で暗唱文を発表できる。	A	A	A
	Summary (要約)		英文を読んで自分の英語で要約ができる。	C	B	A
	Short Speech		題目を与えられて、短いスピーチを英語で発表できる。	C	B	A
	Following		英文を聞いて、原稿を見ないで後について読める。	C	B	A
	瞬間英作		日本文を見て即座に作文できる。	C	B	A
	応用		英語で言いたいことを話すことができる。	C	C	C
Listening (聴解力)	Dictation (空所補充)		テープを聞いて、空所を適語で埋めることができる。	A	A	A
	Comprehension (内容理解)	実用英語検定 準 2 級リスニング大問 1 (対話の補充)	準 2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 2 (対話)	準 2 級リスニング大問 2 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 1 (対話の補充)	準 2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 2 (対話)	準 2 級リスニング大問 2 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 準 2 級リスニング大問 3 (長文)	準 2 級リスニング大問 3 レベルが理解できる。	B	A	A
		実用英語検定 2 級リスニング大問 1 (対話)	2 級リスニング大問 1 レベルが理解できる。	C	C	B

分類	項目	細目	理解すべき内容	I	II	III
Listening (聴解力) (つづき)	Comprehension (内容理解)	実用英語検定 2級リスニング 大問2 (長文)	2級リスニング大問2レベルが理解できる。	C	C	B
		TOEIC Part I (絵を 見ての理解)	TOEIC リスニング Part I レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part II (対話の補充)	TOEIC リスニング Part II レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part III (対話)	TOEIC リスニング Part III レベルが理解できる。	C	C	C
		TOEIC Part IV (長文)	TOEIC リスニング Part IV レベルが理解できる。	C	C	C
		ドラマの英語	ドラマを鑑賞して、登場人物のせりふを理解できる。	C	B	A
表現	対話(基礎)	Survival English	Survival English(生活最低限の英語)が理解できる。	A	A	A
		教室英語	教室英語が理解できる。	A	A	A
		あいさつ	あいさつの表現が理解できる。	A	A	A
		自己紹介	自己紹介の表現が理解できる。	A	A	A
		家族・友人・ 趣味紹介	家族・友人・趣味紹介の表現が理解できる。	A	A	A
		故郷紹介	故郷紹介の表現が理解できる。	A	A	A
	対話(感情)	誘う・断る	誘う・断るの表現が理解できる。	A	A	A
		話題を変える 興味・関心	話題を変える・興味・関心の表現が理解できる。	A	A	A
		感謝	感謝の表現が理解できる。	A	A	A
		感情表現	感情表現の表現が理解できる。	A	A	A
	対話(場面)	聞き返す・尋 ねる・頼む	聞き返す・尋ねる・頼むの表現が理解できる。	A	A	A
		Directions	Directions の表現が理解できる。	A	A	A
		Shopping	Shopping の表現が理解できる。	A	A	A
		Airport -Departure	Airport-Departure の表現が理解できる。	C	B	A
		Airport -Arrival	Airport-Arrival の表現が理解できる。	C	B	A
		Telephone	Telephone の表現が理解できる。	C	B	A
		Post Office	Post Office の表現が理解できる。	C	B	A
		Restaurant	Restaurant の表現が理解できる。	C	B	A
		Hospital	Hospital の表現が理解できる。	C	B	A
		Bank	Bank の表現が理解できる。	C	B	A
		Hotel	Hotel の表現が理解できる。	C	B	A
Reporting an Emergency	Reporting an Emergency の表現が理解できる。	C	B	A		